

# 簡便な歯周病検診 企業健診モデルとして期待

九歯大らが開発

簡便な方法の確立が課題とされていた歯周病検査だが、九州歯科大学(西原達次学長)らの開発した「舌ぬぐい液による迅速歯周病検診」が商品化され、今後、同大と北九州商工会議所が連携し、6千人以上の職員を対象にアドチェック検診をすることが決まった。「企業健診に歯周病検診を標準的に組み込むモデル」の先行事例になり得るものとして期待がかかる。同大が7日、北九州商工会議所と西日本産業衛生会と共同で開いた「歯周病検診事業のキックオフ」の記者会見Ⅱ写真Ⅱで説明した。

同大によると、一昨年から北九州市内で行った実証試験により有効性を確認。北九州病院グループの1千人以上の職員に実施したアドチェック検診と、北九州病院グループ・西日本産業衛生会がプロジェクトに参画したことが実用化の決め手となり、学術成果は『PLOS ONE』にも採択された。

今後、同活動をさらに発展させ、歯周病重症化予防につながる「国民皆歯科健診」の実現に注力していく方針を示しており、新たにH. U. グループ中央研究所や市内の急性期病院・療養期病院と連携し、革新的コンセプトとしての「オールヘルスリテラシー」を構築するため、医歯工連携で緻密な調査研究を進めていくとしている。



6千人以上の  
職員に実施へ

日本  
歯科  
新聞

2021年(令和3年)

12月21日